Press Release

アドソル日進

2026年10月30日

アドソル日進、GIS 技術を活用した災害情報配信実証を防災科研より受注
～防災 DX に求められる大容量の時系列地理空間データの高速配信・可視化技術を検証～

アドソル日進株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 篠﨑俊明、以下：アドソル日進）は、このたび、国立研究開発法人 防災科学技術研究所（以下：防災科研）が実施する災害情報の配信実証支援業務を受注いたしました。

本業務では、防災科研が研究基盤として開発・運用する「SIP4D」、マルチセンシングデータ常時解析・可視化・共有システム「SIP4D-Sens」等を用い、時系列で変化する地理空間データを軽量かつ高速に配信・可視化するための技術実証を実施いたします。

本実証を通じ、災害発生直後から刻々と変化する情報を関係機関が迅速に共有し、状況把握や意思決定に活用できる災害情報配信基盤の実現に貢献してまいります。

本リリースのポイント

・アドソル日進が防災科研から、「SIP4D」等で生成・流通・共有される災害情報の高速配信・可視化技術の実証を受注
・20 年以上にわたり培ってきた GIS 技術と豊富な実績を活かし、技術的な実現性と課題を明らかにすることを目指す

1. 技術実証の背景

防災科研では、先進的な技術や知見を結集し、研究成果を社会実装につなげる情報流通基盤として、基盤的防災情報流通ネットワーク「SIP4D」、マルチセンシングデータ常時解析・可視化・共有システム「SIP4D-Sens」、災害動態意思決定支援システム「SIP4D-DDS」等を開発・運用し、防災・減災分野における情報活用高度化に取り組んでいます。これらシステムを用い、複数の災害対応機関（国・都道府県・指定公共機関など）から収集した情報を地図上に一元表示する「共通状況図」など、状況認識の統一、災害対応における意思決定の迅速化等の研究が進められています。

一方、災害時に地図を活用し迅速な情報共有を行うためには、気象データや被害推定情報、各種センサーデータなど、継続的に更新される大量の地理空間データを迅速に共有することが求められます。ただし、これら時系列地理空間データは更新頻度が高く、データ量も大きいため、スピードを優先し加工せずに Web 上で配信すると、表示速度や操作性の低下、通信回線や端末への負荷増大を引き起こす恐れがあります。

2. 本実証の概要

本実証では、SIP4D-Sens 等が生成・取得する時系列地理空間データについて、アドソル日進が約 20 年にわたり培ってきた GIS:地理情報システムの知見・技術を活かし、「ベクトルタイル化」による配信データの軽量化など、技術的な実現性と課題を明らかにすることを目指します。

（主な目標）
・大容量の時系列地理空間データを効率的に取得・閲覧できること
・複数形式のデータを時間軸に沿って可視化できること
・Windows、Android、iOS 等の主要ブラウザで安定的に利用できること
・変換時間、配信速度、応答性能、画質などを比較評価できること
・データ特性に応じた最適な配信方式を整理できること　　等

報道関係者 お問い合わせ先： アドソル日進株式会社 経営企画室 広報・IR 担当
TEL（代表）：03-5796-3131　　e-mail：ir@adniss.jp

3．受注プロジェクトの概要

業務名	SIP4D-Sens 等災害情報プロダクトのベクトルタイル配信技術実証支援業務
発注元	国立研究開発法人 防災科学技術研究所
期　間	2026 年 7 月 24 日～2026 年 12 月 25 日

【ご参考】アドソル日進の GIS ソリューション

アドソル日進は、約 20 年にわたり、GIS：地理情報システムを活用した各種 IT システムの構築、導入・活用コンサルティング、さらには商圏分析ソリューション「DOCOYA（ドコヤ）」などといった独自ソリューションの提供をワンストップで行っております。

ワンストップ対応　：GIS システムの開発から保守、運用支援までを一貫して提供
多彩なソリューション：自社開発の GIS ソリューションや、各種 GIS プラットフォーム（ArcGIS、Mapbox など）の導入・活用支援
次世代スマートシティ：まちづくり、レジリエンスに不可欠なデジタルツインや都市 OS、AI・IoT を融合させたサービス提供

以　上

（主な用語）

・SIP4D（基盤的防災情報流通ネットワーク）：
災害対応を行う様々な機関が保有する情報を相互に共有することにより、各対応機関の状況認識の統一を図り、効率的な災害対応を実現するための情報流通基盤。防災科研の研究基盤として、また、内外の防災研究成果の流通基盤として運用・開発されている
SIP4D は、Shared Information Platform for Disaster Management の略語

・SIP4D-Sens（マルチセンシングデータ常時解析・可視化・共有システム）：
防災科研が試験運用している、衛星や地上センサーなどの多様なデータを常時解析・可視化して共有する災害情報システム

・SIP4D-DDS（災害動態意思決定支援システム）：
デジタルツインにより災害時の状況を再現・解析し、意思決定を支えるシステム。SIP4D上で共有される災害動態データをリアルタイムで解析するための災害動態解析（Dynamic Disaster-data Synthesis）機能を備える

・ベクトルタイル化：
数値化された地理データ（ベクターデータ）を、インターネット等で配信しやすいよう格子状の細かい領域（タイル）に分割・変換する技術。従来の画像データ（ラスタータイル）と比べ、データ量が小さく、通信の高速化が可能

※ 本リリースに記載された内容は、**発表日時点の情報**です。その後、サービス提供状況や仕様などが変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。
※ その他会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。
なお、本文中において TM、®マークの一部を記載しておりません。

報道関係者 お問い合わせ先： アドソル日進株式会社　経営企画室　広報・IR 担当
TEL（代表）：03-5796-3131　　e-mail：ir@adniss.jp